

自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準 1	使命・目的等
基準項目 1-1	使命・目的及び教育目的の設定

担当部局（委員会等）	学長室（学長室会議）
------------	------------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 <自己判定>

自己判定の留意点に沿って、「自己評価」欄に「A・B・C・D」による4段階で判定結果を記入してください。

A：満たしている／前年度等に掲げた改善・向上方策：全て達成済

B：満たしている／ " "：計画進行中

C：満たしている／ " "：計画検討中

D：満たしていない／認証評価で「不適合」、もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

No.	評価の視点（上段） 自己判定の留意点（下段）	2020年度 自己評価	2021年度 自己評価
		判定	判定
1-1-④	変化への対応 a. 社会情勢などに対応し、必要に応じて使命・目的及び教育目的の見直しなどを行っているか。	C	—
			—
			—

2 自己点検・評価

<2020年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
1-1-④	a	自己点検・評価の基準日である5月1日時点では、協議会での話し合いはできていないが、今後の予定として、令和2(2020)年6月29日の協議会で審議事項として扱う。

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
1-1-④	a	

3 エビデンス資料 <2020年度>

No./留意点		エビデンス資料の名称
1-1-④	a	なし

<2021年度>

No./留意点		エビデンス資料の名称
1-1-④	a	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。
<p>検討内容：</p> <p>実行開始： 年 月</p>

3 エビデンス資料 <2020年度>

No./留意点		エビデンス資料の名称
1-2-④	a	なし
1-2-⑤	a	なし

<2021年度>

No./留意点		エビデンス資料の名称
1-2-④	a	
1-2-⑤	a	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。
<p>検討内容：</p> <p>実行開始： 年 月</p>

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
2-1-①	a	
2-1-②	a	
2-1-③	a	

3 エビデンス資料

<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
2-1-①	a	<ul style="list-style-type: none"> ・2021年度大阪大谷大学 大学案内 ・2021年度大阪大谷大学 入試ガイド ・2020年度大阪大谷大学 入学試験要項 (公募制推薦入試、一般入試、センター試験利用入試) ・2021年度大阪大谷大学大学院 大学院パンフレット (文学研究科、薬学研究科) ・2021年度大阪大谷大学 文学部パンフレット ・2021年度大阪大谷大学 教育学部パンフレット ・2021年度大阪大谷大学 人間社会学部パンフレット ・2021年度大阪大谷大学 薬学部パンフレット
2-1-②	a	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪大谷大学A0入試担当委員会規程 ・大阪大谷大学スポーツ推薦委員会規程 ・大阪大谷大学入試実行委員会規程 ・2018年度入試広報委員会議事録 (H30/10/10)
2-1-③	a	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪大谷大学 (学部) 2020年度入試概況 ・令和2年度 大阪大谷大学 入試結果 ・2021年度大阪大谷大学 入試ガイド

<2021年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
2-1-①	a	
2-1-②	a	
2-1-③	a	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

データに基づいた募集活動の再構築を行うこと。
 なお、募集活動の方向性について、今年度中に推進委員会（協議会）に報告すること。

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 *検討内容、実行時期を記述する。

検討内容：

リクルートの協力で、接触→来校・出願に関する分析を実施し、接触から来校・出願の歩留まりが他校より低いことが明らかになった。来校・出願の歩留まりを高めることが優先課題だと考える。その課題に向けて、次の検討を行い、有効な募集活動を再構築する。

①有効な接触媒体の精選：業者、内容、方法

②広報物の見直し：電子情報の有効活用、在校生のメッセージをより強く出すなど

募集活動の方向性については、今年度中に推進委員会に報告する。

実行開始： 2020年10月（10月15日に入試広報課独自でリクルートと検討時間を取りました。ここを起点とすれば10月からとなります）

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
2-2-①	a	

3 エビデンス資料

<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
2-2-①	a	・大阪大谷大学教育・学修支援センター規程

<2021年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
2-2-①	a	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 *検討内容、実行時期を記述する。
検討内容： 実行開始： 年 月

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
2-2-①	a	

3 エビデンス資料

<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称
2-2-①	a <ul style="list-style-type: none"> ・大阪大谷大学英語教育センター規程 ・ACE LESSONSスケジュール_Moodle画面 ・e-Learningマニュアル ・2019アチーブメントテスト受験状況_教授会資料 (R2/03/04) ・2019アチーブメントテスト結果報告_教授会資料 (R2/03/04)

<2021年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称
2-2-①	a

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 *検討内容、実行時期を記述する。
検討内容： 実行開始： 年 月

自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準 2	学生
基準項目 2-2	学修支援

担当部局（委員会等）	障がい学生支援室（障がい学生支援委員会）
------------	----------------------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 <自己判定>

自己判定の留意点に沿って、「自己評価」欄に「A・B・C・D」による4段階で判定結果を記入してください。

A：満たしている／前年度等に掲げた改善・向上方策：全て達成済

B：満たしている／ " " : 計画進行中

C：満たしている／ " " : 計画検討中

D：満たしていない／認証評価で「不適合」、もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

No.	評価の視点（上段） 自己判定の留意点（下段）	2020年度 自己評価	2021年度 自己評価
		判定	判定
2-2-②	TA(Teaching Assistant)等の活用をはじめとする学修支援の充実 a. 障がいのある学生への配慮を行っているか。	B	—
			—
			—

2 自己点検・評価 <2020年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
2-2-②	a	障がい学生への配慮においては、個別支援部会を開催し、個々の学生において検討・実施を行っている。新入生は「大学生生活支援カード」の導入により、入学前から相談に繋がるケースが増えている。そのため、入学前の学修支援相談体制の整備を目指し、令和2（2020）年度からオープンキャンパスでの相談を実施する。教職員向けの研修においては、聴覚障がい学生への情報保障に関する研修を行った。今後も障がいのある学生の教育の機会均等の確保を基に、研修会の開催を検討している。サポート学生の活動においては、令和元（2019）年度後期より手書きノートテイクからPCテイクに主軸を移し、遠隔授業においても、PCを用いた遠隔での情報保障活動を開始した。

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
2-2-②	a	

3 エビデンス資料

<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
2-2-②	a	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年度前期の配慮学生数・相談学生数一覧 ・障がい学生のための支援機器一覧（2020年度現在） ・遠隔情報保障対応件数（2020年度4月～6月） ・教職員向け研修「障がい学生への情報保障について考えよう！」案内チラシ

<2021年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
2-2-②	a	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 *検討内容、実行時期を記述する。
検討内容： 実行開始： 年 月

自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準 2	学生
基準項目 2-2	学修支援

担当部局（委員会等）	教務部（教務委員会）
------------	------------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 <自己判定>

自己判定の留意点に沿って、「自己評価」欄に「A・B・C・D」による4段階で判定結果を記入してください。

A：満たしている / 前年度等に掲げた改善・向上方策：全て達成済

B：満たしている / " " : 計画進行中

C：満たしている / " " : 計画検討中

D：満たしていない / 認証評価で「不適合」、もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

No.	評価の視点（上段）	2020年度	2021年度
		自己評価	自己評価
自己判定の留意点（下段）		判定	判定
2-2-②	TA(Teaching Assistant)等の活用をはじめとする学修支援の充実 b. オフィスアワー制度を全学的に実施しているか。	C	—
	TA(Teaching Assistant)等の活用をはじめとする学修支援の充実 c. 教員の教育活動を支援するために、TAなどを適切に活用しているか。	C	—
	TA(Teaching Assistant)等の活用をはじめとする学修支援の充実 d. 中途退学、休学及び留年への対応策を行っているか。	C	—

2 自己点検・評価 <2020年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
2-2-②	b	アドバイザー制度については、外形的な制度はできており、今後はActive Academyにおける指導記録の分析を中心にして、その内実について調査を進め、SD研修などを通じて効果的な学修指導のあり方を検討する。 オフィスアワーは制度化されており、学生へも周知が行われているが、学生側・教員側双方の調査により、その実態を把握する。 授業評価アンケートについては、これまで紙媒体で無記名により行ってきた。ただ、記名式もしくはWeb方式を採用している大学も多く、コストの評価や他大学の状況を調査しながらWeb方式による実施も検討する。
	c	大学院生が少ない本学においてはTA制度の拡充は難しい面があるが、SA制度については、薬学部のみならず他学部においても検討していくべきと考える。ただし、SAが必要な授業科目のリストアップのほか、それぞれの授業科目の受講者が適正なものかどうかについても合わせて議論する。
	d	学期GPAや出席状況により学修指導が必要な学生を抽出し、適宜アドバイザーにより対応しながら、その結果を学科内で共有するしくみをとっている。今後は出席状況の正確な把握が行えるよう、学務システムの活用を積極的に活用し、随時リアルタイムに出欠状況が把握できるような体制をとる。

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
2-2-②	b	
	c	
	d	

3 エビデンス資料

<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称
2-2-②	b ・大学ホームページ「オフィス・アワーについて」 ・シラバス「OA演習」
	c ・大阪大谷大学ティーチング・アシスタント規程 ・大阪大谷大学薬学部スチューデント・アシスタント規程
	d ・Active Academy 指導記録

<2021年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称
2-2-②	b
	c
	d

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求
学生の学修成果や学務システムを活用し、学部（学科）で退学者等の減少に向けた取り組みを検討し、それをVISION2025に反映させること。

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 *検討内容、実行時期を記述する。
<p>検討内容： 学部（学科）で退学者等の減少に向けた取り組みについては、すでにVISION 2025の後半期の基本方針「心身に悩みを抱える学生に対する相談体制の充実を図る。」において、各学部・学科によるアクションプラン策定作業が進められている。教務部としては、上記のアクションプラン策定の進捗状況によって、成績やGPA等の数値的な学習状況以外にも、質的な情報となる学生の学修成果や学務システムの情報を提供する等、各学部・学科と連携を図りながら、退学者等の減少に向けた取り組みを進める。</p> <p>実行開始：2021年4月</p>

3 エビデンス資料 <2020年度>

No./留意点		エビデンス資料の名称
2-6-①	a	・2019年度 学生満足度調査 結果報告（全体）

<2021年度>

No./留意点		エビデンス資料の名称
2-6-①	a	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。
<p>検討内容：</p> <p>実行開始： 年 月</p>

自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準 2	学生
基準項目 2-6	学生の意見・要望への対応

担当部局（委員会等）	教務部（教務委員会）
------------	------------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 <自己判定>

自己判定の留意点に沿って、「自己評価」欄に「A・B・C・D」による4段階で判定結果を記入してください。

A：満たしている／前年度等に掲げた改善・向上方策：全て達成済

B：満たしている／　　　　　　　　　　　　"　　　　　　　　　　　　　　：計画進行中

C：満たしている／　　　　　　　　　　　　"　　　　　　　　　　　　　　：計画検討中

D：満たしていない／認証評価で「不適合」、もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

No.	評価の視点（上段）	2020年度	2021年度
		自己評価	自己評価
自己判定の留意点（下段）		判定	判定
2-6-①	学修支援に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用 a. 学生への学修支援に対する学生の意見などをくみ上げるシステムを適切に整備し、学修支援の体制改善に反映させているか。	C	—
			—
			—

2 自己点検・評価

<2020年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 （A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください）
2-6-①	a	授業評価アンケートについては、数的データ及び自由記述から、それぞれの授業科目の特性や学科ごとに傾向をつかみ、学修支援の必要な学生数および具体的な学習支援の方法について検討する。 同アンケートの結果に基づき、各教員に担当科目について自己評価をしてもらう形をとっており、アンケート結果および自己評価の結果から全体的な傾向を分析し、どのような学修支援が必要なのかを全学的に周知する機会を設けることを検討する。 また、学生教育改善会議においては、学生から必要な支援策のアイデアを出してもらえるように、会の運営方法や質問項目を検討する。

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
2-6-①	a	

3 エビデンス資料

<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称
2-6-①	a <ul style="list-style-type: none"> ・大阪大谷大学 学生教育改善会議要項 ・大学ホームページ「学生による授業評価に関する集計結果報告」 ・大学のWebポータルサイト「Active Academy」 「学生による授業評価および施設に関する改善報告」

<2021年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称
2-6-①	a

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 *検討内容、実行時期を記述する。
検討内容： 実行開始： 年 月

3-1-③	a	<p>ディプロマ・ポリシーの項目ごとの到達度については、学修成果を可視化する観点から、各授業科目の成績評価とカリキュラムマップをもとに、令和2（2020）年度在学生に対して施行的に作成して、各学生に提示する。</p> <p>令和2（2020）年度のシラバスより到達目標および評価基準において、ディプロマ・ポリシーに即した記述を設けるように依頼したが、その内容や書式についてはばらつきがあるため、今後のルーブリックを用いた質的評価の実施につなげるよう、書きぶりについては統一を図っていきたい。</p> <p>GPAによる進級基準については、制度導入後に留年した学生についての分析を行う。</p> <p>GPAによる退学勧告制度については、退学勧告に至るまでの学修指導およびその後の行動や指導（就学継続か退学か、就学継続の場合にはその後のフォロー体制など）について分析を行う。</p>
-------	---	--

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-1-①	a	
3-1-②	a	
3-1-③	a	

3 エビデンス資料

<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称
3-1-①	a <ul style="list-style-type: none"> ・大学ホームページ「ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）」 ・各学科発行「学習マニュアル」「履修マニュアル」
3-1-②	a <ul style="list-style-type: none"> ・シラバス作成の手引き ・シラバスに係るFD研修会開催案内（専任教員対象） ・2020年度教務関係事項説明会・FD研修会および懇親会の開催案内（非常勤講師対象） ・大阪大谷大学文学部・教育学部・人間社会学部授業科目履修規程 第34条第4項 ・大阪大谷大学薬学部授業科目履修規程 第17条第4項
3-1-③	a <ul style="list-style-type: none"> ・シラバス作成の手引き

<2021年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称
3-1-①	a
3-1-②	a
3-1-③	a

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

<p>学長からの改善要求に対する取組計画 *検討内容、実行時期を記述する。</p> <p>検討内容：</p> <p>実行開始： 年 月</p>
--

3-2-③	b	シラバスについては、到達目標および評価基準においてディプロマ・ポリシーと関連づけた記述を依頼している。ただ、その内容が必ずしも統一がとれたものにはなっていない。その記述方法についてより周知徹底を図り、各授業科目のルーブリックによる質的評価、および総合的な学修成果の明示につなげられるようにする。
	c	特になし
3-2-④	a	共通教育科目を偏りなく配置することにより適切な教養教育が実施できている。なお、専門教育科目の一部を他学科の共通教育科目として開放している点について教務委員会で議論を行なったが、①教養教育の幅広さを維持するには不可欠である、②共通教育科目への開放により専門性が薄まるわけではないとの理由から、今後も継続することになった。
3-2-⑤	a	アクティブラーニングをテーマとしたFD研修、もしくは授業参観を実施したい。ただし、今年度それが実施できるかどうか不透明である。
	b	特になし

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-2-①	a	
3-2-②	a	
3-2-③	a	
	b	
	c	
3-2-④	a	
3-2-⑤	a	
	b	

3 エビデンス資料

<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-2-①	a	<ul style="list-style-type: none"> 大学ホームページ「カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）」 各学科「学習マニュアル」「履修マニュアル」
3-2-②	a	<ul style="list-style-type: none"> 大学ホームページ「ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）」 大学ホームページ「カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）」
3-2-③	a	<ul style="list-style-type: none"> 大学ホームページ「各学科カリキュラムマップ&科目ナンバリング」 大学ホームページ「カリキュラムツリー」 2020年度横断的教育推進部会 議事録 (R2/04/22)
	b	<ul style="list-style-type: none"> シラバス作成の手引き シラバスチェックシート
	c	<ul style="list-style-type: none"> 各学科「学習マニュアル」「履修マニュアル」 大阪大谷大学文学部・教育学部・人間社会学部授業科目履修規程 第4条第2項 大阪大谷大学薬学部授業科目履修規程 第4条第2項 大阪大谷大学CAP制に関する要項(平成31年4月1日改正)

3-2-④	a	<ul style="list-style-type: none"> ・大学ホームページ「各学科カリキュラムマップ&科目ナンバリング」 ・大学ホームページ「カリキュラムツリー」 ・カリキュラム表(2020年度)
3-2-⑤	a	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバス「OA演習」
	b	<ul style="list-style-type: none"> ・FD部会要項 ・FD講演会・研修会案内

<2021年度>

No./留意点		エビデンス資料の名称
3-2-①	a	
3-2-②	a	
3-2-③	a	
	b	
	c	
3-2-④	a	
3-2-⑤	a	
	b	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 *検討内容、実行時期を記述する。
<p>検討内容：</p> <p>実行開始： 年 月</p>

3-2-⑤	a	現状において行っているオンライン授業を通して、随時改善を図っている。より効果的な方法について、学部で意見を共有する場を検討中。 歴史文化学科と合同で、令和2（2020）年9月に文学部FD研修会を開催すべく準備を進めている。また、図書館コース・日本語教育コースの科目の中で協働的学びの実践が可能となる場の設定を検討中である。
	b	令和元（2019）年10月の合同学科会議にて、FD委員会および初年次教育検討委員会を設置することを決議した。 FD委員会については今夏に、初年次教育検討委員会については令和2（2020）年度末に報告書を作成する方向で進めている。

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-2-③	a	/
	c	
3-2-⑤	a	
	b	

3 エビデンス資料

<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-2-③	a	・各学科等の教育課程の体系的編成一覧【文学部 日本語日本文学科】 ・大学ホームページ「(日本語日本文学科) カリキュラム」 ・日本語日本文学科学習マニュアル
	c	・2020年度教授会 資料 (R2/04/15) (2019年度累積GPA3.2以上該当者数) ・日本語日本文学科学習マニュアル
3-2-⑤	a	・2019年度 文学部合同学科会議 議事録 (R1/10/16)
	b	・2019年度 文学部合同学科会議 議事録 (R1/10/16)

<2021年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-2-③	a	/
	c	
3-2-⑤	a	
	b	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

Ⅲ. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。

検討内容：

実行開始： 年 月

	b	令和元（2019）年10月の合同学科会議にて、FD委員会および初年次教育検討委員会を設置することを決議した。 FD委員会については今夏に、初年次教育検討委員会については令和2（2020）年度末に報告書を作成する方向で進めている。
--	---	---

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-2-③	a	/
	c	
3-2-⑤	a	
	b	

3 エビデンス資料

<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-2-③	a	<ul style="list-style-type: none"> 各学科等の教育課程の体系的編成一覧【文学部 歴史文化学科】 大学ホームページ「歴史文化学科」 大学ホームページ「(歴史文化学科)カリキュラム」 歴史文化科学学習マニュアル
	c	<ul style="list-style-type: none"> 2020年度教授会 資料 (R2/04/15) (2019年度累積GPA3.2以上該当者数) 歴史文化科学学習マニュアル 2019年度大阪大谷大学便覧
3-2-⑤	a	<ul style="list-style-type: none"> 2019年度 文学部合同学科会議 議事録 (R1/10/16) シラバス「基礎ゼミ1A」「基礎ゼミ1B」「基礎ゼミ2A」「基礎ゼミ2B」「ゼミナール1A」「ゼミナール1B」「ゼミナール2A」「ゼミナール2B」
	b	<ul style="list-style-type: none"> 2019年度 文学部合同学科会議 議事録 (R1/10/16)

<2021年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-2-③	a	/
	c	
3-2-⑤	a	
	b	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

--

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。

検討内容：

実行開始： 年 月

3-2-⑤	a	<p>幼児教育専攻では、2年次からコースごとに実践現場と連携した教育を4年次まで継続的に実施している。基礎ゼミⅡではグループで討議・企画・現場との調整・実践・振り返りという経験を学年に応じた内容で継続している。最終的には、4年次において「保育実践演習」という授業ですべての実践プロセスを履修者だけで行うところまでいく。また、各コースの専門科目は実践的・体験的内容が多く、グループ討議も多い。これらの実践内容は大学ホームページに随時アップしている。</p> <p>学校教育専攻では、「教科専門」や「教育学分野の専門」のすべての授業構成において、学生同士が対話的に学ぶアクティブ・ラーニングが組み込まれている。例えば、現代教育特論3（学校教育）の授業では、日本の学校教育の在り方を考えることを目的に、学際的な内容を講義と資料で問題提起し、日本の教育と諸外国の教育を対比させるディスカッションやプレゼンテーションによるアクティブ・ラーニングを多用し、学生が問題意識を高め、能動的に学ぶ授業を展開・工夫している。</p> <p>特別支援教育専攻でも多くの授業でアクティブ・ラーニング的要素を取り入れているが、特に、「特別支援教育指導法演習Ⅰ・Ⅱ（通称：きりり教室）」では、発達障がい等の子どもとその保護者の授業協力を得て、学生2名が支援チームとなって一人の子どもを担当し、授業の中で支援実習している。支援を進めるにあたり、子どもの実態把握や支援の目標・内容、支援の順序、使用する教材等を記した個別の支援計画を作成し、その計画に基づいて実践・評価するまでをチームで責任を持って取り組んでいる。その経過の中では様々な課題に直面し、その問題解決に向けてチームで協議したり、相談しながら進めていくことになる。このプロセスは、アクティブ・ラーニングそのものであり、理論と実践をつなぐ学びとなっている。</p>
	b	<p>従来から各専攻会議において、授業での困りごとやどのような工夫をしているか、気になる学生の情報等を共有し、専攻としての授業の工夫や改善に努めてきたが、学部として教授方法の改善を進めるための組織体制はなかったため、学部としての体制はまだ整っていない。令和2（2020）年度には学部にFD委員会組織を早急に立ち上げ、教育学部独自のFDを令和2（2020）年度から実施する。</p>

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-2-③	a	/
	c	
3-2-⑤	a	
	b	

3 エビデンス資料

<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-2-③	a	<ul style="list-style-type: none"> 各学科等の教育課程の体系的編成一覧【教育学部 教育学科】 幼児教育専攻ナビゲーション 学校教育専攻及び特別支援教育専攻学習マニュアル
	c	<ul style="list-style-type: none"> 幼児教育専攻ナビゲーション 学校教育専攻及び特別支援教育専攻学習マニュアル
3-2-⑤	a	<ul style="list-style-type: none"> シラバス <ul style="list-style-type: none"> 幼児教育専攻「基礎ゼミⅡ」「保育実践演習A・B・C」 その他各コースの専門科目「遊び研究」「子どもと植物」「子育て支援ゼミナール」 学校教育専攻「現代教育特論3（学校教育）」 特別支援教育専攻「特別支援教育指導法演習Ⅰ」「特別支援教育指導法演習Ⅱ」 大学ホームページ「教育学部 新着情報一覧」 Tani-WA掲載事項 特別支援教育の理論と実践をつなぐアクティブ・ラーニングによる授業実践（特別支援教育指導法演習の取組）

3-2-⑤	b	なし
-------	---	----

<2021年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-2-③	a	
	c	
3-2-⑤	a	
	b	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。
検討内容： 実行開始： 年 月

自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準3	教育課程
基準項目 3-2	教育課程及び教授方法

担当部局（委員会等）	人間社会学部自己点検・評価委員会（人間社会学科）
------------	--------------------------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 <自己判定>

自己判定の留意点に沿って、「自己評価」欄に「A・B・C・D」による4段階で判定結果を記入してください。

A：満たしている／前年度等に掲げた改善・向上方策：全て達成済

B：満たしている／　　　　　　　　　　　　〃　　　　　　　　　　　　：計画進行中

C：満たしている／　　　　　　　　　　　　〃　　　　　　　　　　　　：計画検討中

D：満たしていない／認証評価で「不適合」、もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

No.	評価の視点（上段）	2020年度	2021年度
		自己評価	自己評価
自己判定の留意点（下段）		判定	判定
3-2-③	カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成	C	—
	a.カリキュラム・ポリシーに即した体系的な教育課程を編成し、実施しているか。		
	カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成	A	—
c.履修登録単位数の上限の適切な設定など、単位制度の実質を保つための工夫が行われているか。			
3-2-⑤	教授方法の工夫・開発と効果的な実施	C	—
	a.アクティブ・ラーニングなど、授業内容・方法に工夫をしているか。		
	教授方法の工夫・開発と効果的な実施	A	—
b.教授方法の改善を進めるために組織体制を整備し、運用しているか。			

2 自己点検・評価

<2020年度>

No.	留意点	
		事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-2-③	a	本学科の学びは、「各学科等の教育課程の体系的編成一覧【人間社会学部 人間社会学科】」に記されているように、カリキュラム・ポリシーにしたがって、知識と関心・態度、スキルの均衡よい向上を目指すとともに、初年次から順次年次があがっていくなかで専門的な学びの内容を高度化させるように設計されている。これまでも、「履修マニュアル」やフレッシュマンキャンプ等をつうじて説明してきているが、今後は、このようなカリキュラムデザインの趣旨と具体像がより明確に伝わるよう、関連する科目（「人間と社会B」）等の時間も活用して説明を行なっていく。 また、上述のようなカリキュラムのなかで学生のどのような力が伸長しているのかということについては、本学科は、体験的な学習プログラムを教育課程の1つの重要な軸として設定し、スポーツ健康学科とともに、社会研究実習担当者会議を設置し、事前・事後アセスメント調査を行ない、それにもとづいて指導のあり方を検討するようになってきた。今後も、このような取組を継続していくとともに、後にも記すPBLプログラム開発において、それがどのような学びを生むのか、プロセス・効果検証メカニズムを構築するべく検討を行なう。 さらに、コースのあり方やそれにもとづいた教育課程の修正については、今後、時間をかけて慎重に検討を進めていく。
	c	全学的なCAP制の取り組みに加え、本学科としては、GPAを活用し、とくにGPA低位にある学生に対するゼミ教員による個別指導を定期的に行い、学生カルテを用いて情報共有しながら、学科組織としてきめ細やかな対応を行うシステムを構築し、運用中である。

3-2-⑤	a	本学科では、体験的な学習プログラムを長い期間にわたって実践してきており、最近も、就活の早期化を含む、社会動向の変化にともなって、平成30（2018）年度からは「地域社会体験実習Ⅰ」（1年次通年）と「グローバル社会体験学習」（2年次通年）を、令和2（2020）年からは「社会研究実習」（2年次通年）を開講（「社会研究実習Ⅰ」「社会研究実習Ⅱ」を整理・閉講）するなど、現場に近いところでの体験的学習プログラムを発展的に展開してきた。令和2（2020）年度には、さらに専門性を高め、あるいは、学際性を深める体験を提供するため、学科内にPBL開発・評価タスクフォースを設置し、令和2（2020）年度前半で企画概要をまとめ、令和2（2020）年度後半で具体的なプログラム開発・実施準備を進める。
	b	令和元（2019）年度は、学部独自のFD研修としてスポーツ健康学科が企画したアクティブ・ラーニングやチーム・ビルディングを活用した授業方法の研修に本学科教員も参加し、知見を高めた。その成果は、正課・正課外、たとえばフレッシュマンミーティングでも活用するなどしている。

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-2-③	a	
	c	
3-2-⑤	a	
	b	

3 エビデンス資料

<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-2-③	a	<ul style="list-style-type: none"> 各学科等の教育課程の体系的編成一覧【人間社会学部 人間社会学科】 履修マニュアル(必修科目・選択科目) 履修マニュアル(履修モデル) シラバス「人間と社会B」 社会研究実習担当者会議議事録 (R2/02/26)
	c	<ul style="list-style-type: none"> 2019年度教授会議事録 (R1/09/18) (2019年度前期GPA1.5未満対象学生) 2019年度教授会議事録 (R2/03/11) (2019年度末退学勧告対象者・後期GPA1.5未満対象者) 学生カルテ
3-2-⑤	a	シラバス「地域社会体験実習Ⅰ」「グローバル社会体験学習」「社会研究実習」
	b	<ul style="list-style-type: none"> FD研修(大学ホームページ)、(報告書)、(行事関係伺書)、(伺書) フレッシュマンミーティングのプログラム

<2021年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-2-③	a	
	c	
3-2-⑤	a	
	b	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

Ⅲ. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。

検討内容：

実行開始： 年 月

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-2-③	a	
	c	
3-2-⑤	a	
	b	

3 エビデンス資料
<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称
3-2-③	a <ul style="list-style-type: none"> 各学科等の教育課程の体系的編成一覧【人間社会学部スポーツ健康学科】 スポーツ健康学科履修マニュアル(2つの指導コース) 大学ホームページ「スポーツ指導コース」 大学ホームページ「健康運動指導コース」 スポーツ健康学科履修マニュアル「スポーツ方法(マリンスポーツ)」 シラバス「スポーツ方法(マリンスポーツ)」 スポーツ健康学科履修マニュアル(アシスタントマネジャー) シラバス「クラブビジネス・マネジメント演習」 スポーツ健康学科履修マニュアル(初級障がい者スポーツ指導員) シラバス「障がい者スポーツ指導論」
	c <ul style="list-style-type: none"> 2019年度教授会議事録(R1/09/18)(2019年度前期GPA1.5未満対象学生) 2019年度教授会議事録(R2/02/19)(卒業式における学長表彰学生等) 2019年度教授会議事録(R2/03/11)(2019年度末退学勧告対象者・後期GPA1.5未満対象者) 2020年度教授会議事録(R2/04/15)(2019年度末時点の上限単位数緩和) 指導記録(学生個人)
3-2-⑤	a <ul style="list-style-type: none"> 大学ホームページ「公開講座 ロコモ・メタボ予防」 大学ホームページ「公開講座 器械運動」 大学ホームページ「公開講座 ソフトボール」 シラバス「スポーツ指導方法演習」(2018~2020年度) スポーツ指導方法演習「ロコモ予防教室」 (大学ホームページ、ちらし、富田林市産官学医議事録、報告書) スポーツ指導方法演習「バレーボール」(報告書)
	b <ul style="list-style-type: none"> FD研修会(大学ホームページ、報告書、行事関係伺書、伺書) フレッシュマンミーティング(タイムテーブル)

<2021年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称
3-2-③	a
	c
3-2-⑤	a
	b

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 *検討内容、実行時期を記述する。
検討内容：
実行開始： 年 月

自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準 3	教育課程
基準項目 3-2	教育課程及び教授方法

担当部局（委員会等）	薬学部自己点検・評価委員会
------------	----------------------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 <自己判定>

自己判定の留意点に沿って、「自己評価」欄に「A・B・C・D」による4段階で判定結果を記入してください。

A：満たしている／前年度等に掲げた改善・向上方策：全て達成済

B：満たしている／" : 計画進行中

C：満たしている／" : 計画検討中

D：満たしていない／認証評価で「不適合」、もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

No.	評価の視点（上段）	2020年度 自己評価	2021年度 自己評価
	自己判定の留意点（下段）	判定	判定
3-2-③	カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成 a.カリキュラム・ポリシーに即した体系的な教育課程を編成し、実施しているか。	A	—
	カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成 c.履修登録単位数の上限の適切な設定など、単位制度の実質を保つための工夫が行われているか。	A	—
3-2-⑤	教授方法の工夫・開発と効果的な実施 a.アクティブ・ラーニングなど、授業内容・方法に工夫をしているか。	B	—
	教授方法の工夫・開発と効果的な実施 b.教授方法の改善を進めるために組織体制を整備し、運用しているか。	A	—

2 自己点検・評価

<2020年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-2-③	a	薬学部の教育カリキュラムは、カリキュラム・ポリシーに示した方針に基づいて実施されており、カリキュラムツリーやナンバリングによって示されるように体系的に実施されている。平成 30 (2018) 年度に実施された薬学教育評価においても、「教育課程の編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー) に沿って編成されている。」との評価を受けている。令和元 (2019) 年度には、薬学部教務委員会が主導して、計画的なカリキュラムの見直しが実施され、1 年次準備学習科目であった補講の必修化、薬学専門科目について、配当学年・配当期の変更、新規科目の追加、選択科目から必修科目への変更など、大幅な改正を行った。また、演習の配置、進め方等の全体方針を教務委員会で決定し、新たに 2 回生と 3 回生に履修した専門科目を復習するための演習を配当した他、学生の意見も踏まえて実施スケジュールや授業方法の見直しを行った。
	c	平成 27 (2015) 年度入学生より CAP 制を導入し、上限単位数を年間 48 に定めるとともに、1 セメスター 15 回の授業時間の確保などを含めた全学的な取り組みに加え、薬学科では進級制度を採用し、各学年で厳格な評価を行うとともに、問題解決能力、自律的・主体的・共感的態度、ならびに実践力を養成する科目にルーブリック評価表を取り入れるなど、単位制度の実質を保っている。

3-2-⑤	a	薬学科では、1 年次前期から 6 年次までの各学年に、PBL、SGD、及び自己学習を取り入れた教科を開講し、コミュニケーション能力や問題解決能力の醸成に向けた教育が体系的に実施されるように図っている。平成 30 (2018) 年度に実施された薬学教育評価においても問題解決能力の醸成に向けた教育については、優れた取り組みとして評価されている。さらに、薬学教育支援・開発センターではアクティブ・ラーニングを含む様々な教育手法を導入・考案しており、補講などを通じて、その活用方法を検討している。アクティブ・ラーニングの推進状況の点検は、平成 30 (2018) 年度以降は実施されていないが、令和元 (2019) 年度は、シラバスの授業計画への SGD などのアクティブ・ラーニングに関する記載に誤りがないか点検作業を行った。アクティブ・ラーニング教育の効果的な進め方については、各講義担当者による見直しを継続中である。
	b	薬学部独自のFDへの取り組みについては、令和元 (2019) 年度、教務委員会主体で教員FDを5月と3月に実施し、教員の意識向上と教育手法の情報交換を行っている。今後も定期的実施する予定であり、改善が進められている。また、薬学教育支援・開発センターは、令和元 (2019) 年度、第4回日本薬学教育学会大会での研究成果発表や、複数のワークショップへの参加を通じて他大学の教員との意見交換を行い、新しい教育方法に関する情報の収集を行っている。また、センターで試行した教育法について、薬学部開催の2019年度第1回薬学部教員FDワークショップ委員会、全学開催のFD講演会「平成29年度・平成30年度教育改革推進プロジェクト事業報告会」にて、その教育手法や学修効果について、多くの教員に周知している。

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-2-③	a	
	c	
3-2-⑤	a	
	b	

3 エビデンス資料
<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-2-③	a	<ul style="list-style-type: none"> 各学科等の教育課程の体系的編成一覧【薬学部 薬学科】 平成30年度薬学教育評価・評価報告書 (p1) 2018年度薬学部教務委員会 議事録 (H30/07/18) 新カリキュラム原案 (資料2) 薬学部学習マニュアル 科目年次配当表 (p59~62)
	c	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究評価票 (卒業研究発表評価票、卒業論文評価票、卒業研究評価票) 早期臨床体験、医療コミュニケーション演習Ⅱ評価票
3-2-⑤	a	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度薬学教育評価・評価報告書 (p16) 2018年度薬学部教務委員会議事録 (H30/11/21)
	b	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度薬学教育評価・評価報告書 (p27) 大阪大谷大学紀要 2020年2月 (p111~119) : 2019年度第1回薬学部教員FDワークショップ実施報告 2019年度教授会 (R2/03/11) 薬学部教務委員会報告 (R2/03/04) 報告事項4 第4回薬学教育学会 ワorkshop日程表・講演要旨 FD講習会 (教育改革推進プロジェクト事業 報告会) 案内

<2021年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-2-③	a	
	c	
3-2-⑤	a	
	b	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。

検討内容：

実行開始： 年 月

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-2-③	a	
3-2-⑤	a	
	b	

3 エビデンス資料

<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-2-③	a	<ul style="list-style-type: none"> 各学科等の教育課程の体系的編成一覧【文学研究科】(国語学国文学専攻) 大学ホームページ「カリキュラム・ポリシー」 2021年度大阪大谷大学大学院 大学院パンフレット(文学研究科)
3-2-⑤	a	2020年度大学院シラバス
	b	2019年度文学研究科委員会議事録(R1/11/27)(小委員会設置を決めたもの)

<2021年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-2-③	a	
3-2-⑤	a	
	b	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 *検討内容、実行時期を記述する。
<p>検討内容：</p> <p>実行開始： 年 月</p>

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-2-③	a	
3-2-⑤	a	
	b	

3 エビデンス資料

<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-2-③	a	<ul style="list-style-type: none"> 各学科等の教育課程の体系的編成一覧【文学研究科】（歴史文化学専攻） 大学ホームページ「カリキュラム・ポリシー」 2021年度大阪大谷大学大学院 大学院パンフレット（文学研究科）
3-2-⑤	a	2020年度大学院シラバス
	b	2019年度文学研究科委員会議事録（R1/11/27）（小委員会設置を決めたもの）

<2021年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-2-③	a	
3-2-⑤	a	
	b	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 *検討内容、実行時期を記述する。
<p>検討内容：</p> <p>実行開始： 年 月</p>

3 エビデンス資料 ＜2020年度＞

No./留意点		エビデンス資料の名称
3-2-③	a	・薬学研究科設置認可申請書「設置の趣旨等を記載した書類」P5 ・大阪大谷大学大学院薬学研究科【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書 (令和2年5月1日現在) 2(1)-(2), 2(3)-(6)
	b	なし

＜2021年度＞

No./留意点		エビデンス資料の名称
3-2-③	a	
3-2-⑤	a	
	b	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 *検討内容、実行時期を記述する。
<p>検討内容：</p> <p>実行開始： 年 月</p>

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-3-①	a	
	b	
3-3-②	a	

3 エビデンス資料

<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-3-①	a	・2019年度教務委員会議事録(R1/09/11、R1/10/09、R1/11/13)
	b	・2019年度教務委員会議事録(R1/9/11、R1/10/9、R1/11/13)
3-3-②	a	・成績評価分布<2019年度協議会資料 (R1/09/08) >
		・成績評価に関する妥当性の検証<2019年度協議会資料 (R1/11/04、R1/12/02) >

<2021年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-3-①	a	
	b	
3-3-②	a	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 *検討内容、実行時期を記述する。
検討内容： 実行開始： 年 月

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-3-①	a	
	b	
3-3-②	a	

3 エビデンス資料

<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-3-①	a	・履修カルテ入力マニュアル
	b	・履修カルテ入力マニュアル
3-3-②	a	・履修カルテ入力マニュアル

<2021年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-3-①	a	
	b	
3-3-②	a	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 *検討内容、実行時期を記述する。
<p>検討内容：</p> <p>実行開始： 年 月</p>

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-3-①	a	
	b	
3-3-②	a	

3 エビデンス資料

<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-3-①	a	・シラバス「文章表現A」「文章表現B」
	b	・2019年度 文学部合同学科会議 議事録 (R1/10/16) ・アセスメントテストに基づく学修指導
3-3-②	a	・2019年度 文学部合同学科会議 議事録 (R1/10/16)

<2021年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-3-①	a	
	b	
3-3-②	a	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 *検討内容、実行時期を記述する。
検討内容： 実行開始： 年 月

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-3-①	a	
	b	
3-3-②	a	

3 エビデンス資料

<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-3-①	a	<ul style="list-style-type: none"> ・「卒業論文口頭試問実施一覧」 ・「大阪大谷大学歴史文化学会 プログラム」 ・『大阪大谷大学 歴史文化研究』 ・シラバス「卒業論文」「ゼミナール2A」「ゼミナール2B」
	b	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年度 文学部合同学科会議 議事録 (R1/10/16) ・2019年度 歴史文化学科会議 議事録 (R1/06/12、R1/09/25、R2/02/12) 学科会議資料 「学修行動調査 結果報告(歴史文化学科)」 「学生満足度調査 結果報告(歴史文化学科)」
3-3-②	a	・2019年度 文学部合同学科会議 議事録 (R1/10/16)

<2021年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-3-①	a	
	b	
3-3-②	a	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 *検討内容、実行時期を記述する。
検討内容： 実行開始： 年 月

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-3-①	a	
	b	
3-3-②	a	

3 エビデンス資料

<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-3-①	a	なし
	b	<ul style="list-style-type: none"> IR委員会による学修行動調査の結果 教育・学修支援センターによるアセスメントテストの結果 2019年度教授会議事録 (R1/06/05) (アセスメントテスト)
3-3-②	a	<ul style="list-style-type: none"> Active Academy内の学生カルテ

<2021年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-3-①	a	
	b	
3-3-②	a	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。
<p>検討内容：</p> <p>実行開始： 年 月</p>

自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準 3	教育課程
基準項目 3-3	学修成果の点検・評価

担当部局（委員会等）	人間社会学部自己点検・評価委員会（人間社会学科）
------------	--------------------------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 <自己判定>

自己判定の留意点に沿って、「自己評価」欄に「A・B・C・D」による4段階で判定結果を記入してください。

A：満たしている／前年度等に掲げた改善・向上方策：全て達成済

B：満たしている／ " " " "：計画進行中

C：満たしている／ " " " "：計画検討中

D：満たしていない／認証評価で「不適合」、もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

No.	評価の視点（上段）	2020年度	2021年度
		自己評価	自己評価
	自己判定の留意点（下段）	判定	判定
3-3-①	三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用 a. 三つのポリシーのうち、特にディプロマ・ポリシーを踏まえた学修成果を明示しているか。	C	—
	三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用 b. 学生の学修状況・資格取得状況・就職状況の調査、学生の意識調査、卒業時の満足度調査、就職先の企業アンケートなどを実施し、大学が定めた多様な尺度・指標や測定方法に基づいて学修成果を点検・評価しているか。	A	—
3-3-②	教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック	A	—
	a. 学修成果の点検・評価の結果を教育内容・方法及び学修指導の改善にフィードバックしているか。		

2 自己点検・評価

<2020年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-3-①	a	4年間の学修の集大成として位置づけられる卒業研究については、これまでも、①ディプロマ・ポリシーを参照し卒業研究の成果を総合的に評価する、②とくに優秀な研究を行なうことができた学生には学科内に設けられた学会で発表機会を付与する等してきたが、今後は、①ディプロマ・ポリシーをループリック化し、学生本人による自己評価、教員による他者評価を行なうことで、学修成果をより明確に認識できるようにする、②（スポーツ健康学科と同様）本学科でも、2～3つのゼミが合同で卒論発表会をいくつか開催し、令和2（2020）年度から数年をかけて、教訓を抽出し、やり方を標準化し、学科の制度としての定着を試みる。
	b	本学科では、全学的な取組である卒業時アンケートや学生生活満足度調査、学習行動調査、アセスメントテスト等に加えて、適宜、本学科独自の取組である資格取得状況の確認が行われてきたが、これらの結果については全専任教員で共有・検討する機会を設けてきている。本学科としては、今後も継続して、同様のデータ共有・検討の機会を設けていく。
3-3-②	a	本学科では、上述（3-3-①b）のように、学内の異なる部署からの学生データを一元化し、これを学科で共有・検討してきた。その結果、たとえば、成績優秀な学生をキャリアセンター主催「キャリア開拓塾」への本学科学生5名の入塾につながるなど、個別学生の指導に活かされている。今後は、成績優秀学生のキャリア開発の機会拡大をさらに図るため、一元化された学生データを活かし、引き続き、キャリアセンター主催の選抜型プログラムへの接続支援や、企業からの指名型採用選考への学内候補者選定等を、人間社会学部キャリア開発支援室を通して、図っていく。

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-3-①	a	
	b	
3-3-②	a	

3 エビデンス資料

<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-3-①	a	<ul style="list-style-type: none"> ・大学ホームページ「学会年次大会」 ・2019年度教授会議事録 (R1/05/08) (教員の授業評価にかかる授業映像撮影) ・2019年度教授会議事録 (R1/09/18) (後期授業公開について)
	b	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年度教授会議事録 (R1/09/18) (卒業時アンケート・学習行動調査) ・2019年度教授会議事録 (R1/09/25) (学習行動調査の把握・学習成果の把握) ・2019年度教授会議事録 (R2/01/08) (卒業時アンケート・学生満足度調査) ・2019年度教授会議事録 (R2/03/04) (アセスメントテスト) ・2019年度教授会議事録 (R1/10/09) (来年度以降の私立大学等改革総合支援事業の取組みについて) ・人間社会学部資格取得状況 平成27～30年度
3-3-②	a	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年度教授会議事録 (R1/05/08) (アセスメントテスト説明会) ・学生ポートフォリオ (指導記録) ・2019年度教授会議事録 (R1/09/18) (キャリア開拓塾 塾生募集) ・キャリア開拓塾 個別面談 ・2019年度学生分析資料(人社3回生)

<2021年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-3-①	a	
	b	
3-3-②	a	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 *検討内容、実行時期を記述する。
検討内容： 実行開始： 年 月

自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準3	教育課程
基準項目 3-3	学修成果の点検・評価

担当部局（委員会等）	人間社会学部自己点検・評価委員会（スポーツ健康学科）
------------	----------------------------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 <自己判定>

自己判定の留意点に沿って、「自己評価」欄に「A・B・C・D」による4段階で判定結果を記入してください。

A：満たしている／前年度等に掲げた改善・向上方策：全て達成済

B：満たしている／" "：計画進行中

C：満たしている／" "：計画検討中

D：満たしていない／認証評価で「不適合」、もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

No.	評価の視点（上段）	2020年度	2021年度
		自己評価	自己評価
自己判定の留意点（下段）		判定	判定
3-3-①	三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用 a. 三つのポリシーのうち、特にディプロマ・ポリシーを踏まえた学修成果を明示しているか。	B	—
	三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用 b. 学生の学修状況・資格取得状況・就職状況の調査、学生の意識調査、卒業時の満足度調査、就職先の企業アンケートなどを実施し、大学が定めた多様な尺度・指標や測定方法に基づいて学修成果を点検・評価しているか。	A	—
3-3-②	教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック a. 学修成果の点検・評価の結果を教育内容・方法及び学修指導の改善にフィードバックしているか。	A	—

2 自己点検・評価

<2020年度>

No.	留意点	
		事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-3-①	a	初年次の「スポーツ健康学」では、オムニバス形式で各教員の専門分野の概論やスポーツに特化したキャリア形成の講義を実施し、その評価は全教員で共有・点検している。しかし、学科全体として学修成果を点検・評価し、学生にフィードバックする体制はまだ作れていない。令和2（2020）年度中に、FD委員を中心に、学内の学習支援システムを活用した独自の体制を構築する。
	b	すでに、卒業時アンケート・学生生活満足度調査・学習行動調査など全学的な調査結果を、学科の全教員で共有し、改善に向けて話し合いの場を持っている。また、大学のGPA制度を活用し、GPA1.5を下回る学生には、ゼミ担当者からのきめの細かい個別指導を行っている。さらに学科独自の取り組みとして、教員やスポーツ指導者を志望する学生のためのサークルを立ち上げ、学生の主体性を引き出しながら専門性を向上させる指導を行っている。 今後は、上記の取り組みの充実やさらなる教育改善に向けて、学科全体としての学習成果の点検・評価体制を、令和2（2020）年度構築する。

3-3-②	a	<p>3-3-①bに記述したような全学的な調査結果の活用等に加え、学科独自では、スポーツ課外活動を行っている学生の活動評価として、各競技団体の年間競技成績を共有すると共に、各指導者がそれぞれの学生のGPAを管理し、指導対象学生に関しては、学習時間の提供・指導を行っている。今後は、指導内容について検討を進める。</p> <p>入学前教育では大学のweb教育システムを活用した履歴の収集を行っている。さらに入学後はジェネリックスキルを多角的に測定・育成するシステムPROGを導入し、年2回のアセスメントテスト結果を元にゼミの教員が個別の面談指導を行っている。</p> <p>スポーツ指導方法演習では、地域のスポーツ競技団体等を指導対象とし、指導案の作成・指導実施・指導内容報告書作成を通じて、学修成果の把握を行っている。その成果を複数の担当教員が共有し、次年度の指導改善につなげている。</p> <p>また、社会研究実習では、エントリーシート作成（明確な目的設定）、実習実施、実習報告書作成を行っている。事前事後のアセスメントシートの分析により、学びを細分化し、複数の担当教員で検討することで、指導改善を行っている。</p> <p>今後は、学科全体としての学習成果の点検・評価体制を構築したうえで、フィードバックの仕組みについても強化を図る。</p>
-------	---	--

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-3-①	a	
	b	
3-3-②	a	

3 エビデンス資料
<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称
3-3-①	<p>a</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資格取得状況(スポ2016～2019) ・シラバス「スポーツ健康学」 <p>b</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019年度教授会議事録 (R1/09/18) (卒業時アンケート・学習行動調査結果) ・2019年度教授会議事録 (R2/01/08) (卒業時アンケート・学生満足度調査) ・2019年度教授会議事録 (R1/09/25) (学生の学修時間・学習行動の把握) ・資格取得の状況(スポ2016～2019) ・指導記録(学生個人) ・大学ホームページ「保健体育サークルPETS」 ・PETS活動日時 ・PETS大学案内 ・健康運動指導士取得サークル(健康運動実践指導者問題集p22-23) ・健康運動指導士取得サークル(健康運動実践指導者養成用テキストp21、p22、p25、p30)
3-3-②	<p>a</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PSSP規約20180928 ・PSSP年間スケジュール ・2019年度スポーツ健康学科会議 (R1/05/08) (入学前教育実施状況) ・2019年度合同学科会議 (R1/12/18) (学長裁量経費PJによるPROG実施等について) ・PROG強化書 ・PROGアセスメントテスト(PROGを用いた学修成果の振り返り) ・PROG(スポ健)学修指導 ・PROG(スポ健)教員からのアドバイス ・PROG全体傾向報告書(2019) ・2019年度教授会議事録 (R2/03/04) (PROGアセスメントテスト) ・シラバス「スポーツ指導方法演習」 ・スポーツ指導方法演習(サッカー)指導案①・② ・スポーツ指導方法演習報告書_サッカー1・2 ・シラバス「社会研究実習Ⅱ」 ・社会研究実習年間予定表_200226 ・エントリーシート(社会研究実習Ⅱ) ・2019年度 社会研究実習アセスメントシート報告書

<2021年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称
3-3-①	a
	b
3-3-②	a

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。

検討内容：

実行開始： 年 月

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-3-①	a	
	b	
3-3-②	a	

3 エビデンス資料

<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-3-①	a	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年度教授会 (R2/02/12) 薬学部教務委員会議事録 (R2/01/22) 報告事項1, 2 ・2019年度教授会 (R2/03/11) 薬学部教務委員会議事録 (R2/03/04) 報告事項2
	b	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年度教授会議事録 (R1/09/04) 報告事項17 ・2019年度教授会議事録 (R1/09/18) 報告事項16 ・2019年度教授会議事録 (R1/09/25) 報告事項3 ・薬学部学習マニュアル (p273~289) ・2019年度教授会議事録 (R1/09/04) 報告事項16
3-3-②	a	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年度教授会議事録 (R1/09/04) 報告事項16 ・教員支援システム (見本)

<2021年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-3-①	a	
	b	
3-3-②	a	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 *検討内容、実行時期を記述する。
<p>検討内容：</p> <p>実行開始： 年 月</p>

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
4-2-②	a	

3 エビデンス資料

<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称
4-2-②	a <ul style="list-style-type: none"> ・2019年度FD部会議事録 (R1/04/17、R1/05/22、R1/06/12、R1/07/17、R1/09/18、R1/10/09、R1/11/20、R1/12/18) ・FD研修会・講演会等の案内 ・授業参観の案内 ・2019年度大阪大谷大学協議会議事録 (R1/09/18、R1/11/04、R1/12/02)

<2021年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称
4-2-②	a

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求
<p>人員等の体制が整うことを条件として、FDに関する業務を教育・学修支援センターへ移管し、FDの課題の改善や充実を図ること。</p> <p>なお、FD業務の引継ぎ状況等については、適宜、学長に報告すること。</p>

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 *検討内容、実行時期を記述する。
<p>検討内容：</p> <p>現在、授業科目レベルでのFDは充実しているような状況であるが、カリキュラムレベルのFDがほとんど行われていない状況にある。授業改善だけでなく、教学マネジメント体制の基盤となるようなFDの内容を、教育・学修支援センターとともに再検討し、学長への報告も行いながら業務移管を行う準備を進める。また、各学部単位でのFD実施についても促しを行っていく。</p> <p>実行開始：2021年4月</p>

自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準 6	内部質保証
基準項目 6-1	内部質保証の組織体制

担当部局（委員会等）	学長室（学長室会議）
------------	------------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 <自己判定>

自己判定の留意点に沿って、「自己評価」欄に「A・B・C・D」による4段階で判定結果を記入してください。

A：満たしている／前年度等に掲げた改善・向上方策：全て達成済

B：満たしている／ " " : 計画進行中

C：満たしている／ " " : 計画検討中

D：満たしていない／認証評価で「不適合」、もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

No.	評価の視点（上段）	2020年度	2021年度
		自己評価	自己評価
自己判定の留意点（下段）		判定	判定
6-1-①	内部質保証のための組織の整備、責任体制の確立	A	—
	a. 内部質保証に関する全学的な方針を明示しているか。		
	内部質保証のための組織の整備、責任体制の確立	A	—
	b. 内部質保証のための恒常的な組織体制を整備しているか。		
内部質保証のための組織の整備、責任体制の確立	A	—	
c. 内部質保証のための責任体制が明確になっているか。			

2 自己点検・評価 <2020年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
6-1-①	a	令和2（2020）年3月に「大阪大谷大学内部質保証に関する方針」を策定し、その中で学内組織の役割等も明示している。また、内部質保証におけるPDCAサイクルの仕組みも図示した。
	b	「内部質保証推進委員会」の下、「大学自己点検・評価委員会」「部局自己点検・評価委員会」等を整備している。
	c	令和2（2020）年3月に本学の内部質保証の推進に責任を負う組織として、「内部質保証推進委員会（協議会がこれにあたる）」を設置した。

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
6-1-①	a	
	b	
	c	

3 エビデンス資料 ＜2020年度＞

No./留意点	エビデンス資料の名称	
6-1-①	a	・「大阪大谷大学内部質保証に関する方針」 ・大阪大谷大学内部質保証に関する規程
	b	・「大阪大谷大学内部質保証に関する方針」 ・大阪大谷大学内部質保証に関する規程
	c	・「大阪大谷大学内部質保証に関する方針」 ・大阪大谷大学内部質保証に関する規程

＜2021年度＞

No./留意点	エビデンス資料の名称	
6-1-①	a	
	b	
	c	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。
<p>検討内容：</p> <p>実行開始： 年 月</p>

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
6-2-①	a	
	b	
	c	
6-2-②	a	

3 エビデンス資料

<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
6-2-①	a	・「大阪大谷大学内部質保証に関する方針」
	b	・大阪大谷大学内部質保証に関する規程 ・自己点検評価項目及び実施体制
	c	・令和元年度自己点検評価書 ・大学ホームページ「大学評価」
6-2-②	a	・大阪大谷大学教育・学修支援センター規程

<2021年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
6-2-①	a	
	b	
	c	
6-2-②	a	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。
検討内容： 実行開始： 年 月

3 エビデンス資料 ＜2020年度＞

No./留意点	エビデンス資料の名称	
6-3-①	a	<ul style="list-style-type: none"> ・「大阪大谷大学内部質保証に関する方針」 ・「改善・向上方策」に基づく今後の対応（改善計画） ・2020年度内部質保証推進委員会議事録（R2.04.20）
	b	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年度大学自己点検・評価委員会議事録（R2.03.16） ・VISION2025 2019年度（単年度）の取組結果達成状況

＜2021年度＞

No./留意点	エビデンス資料の名称	
6-3-①	a	
	b	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。
<p>検討内容：</p> <p>実行開始： 年 月</p>